

実践報告

札幌市立福井野小学校

(1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験的学習の研究」

- 北海道の先住民族アイヌの人たちが築いてきた歴史や文化について知る。
- 自然を生かした知恵について学び、自分たちとの生活のつながりに気付く。

(2) 実践の内容

【実践①】アイヌの文化に興味をもつための単元の導入について
マユニタラモシリ札幌トンコリ保存会の方々との交流

○ ねらい

アイヌ民族の方から文化や伝統について学ぶ機会を通してアイヌの歴史や文化など、本物に触れる体験をすることで、アイヌ文化により興味をもつことができる。

○ 学習内容

アイヌの歴史や文化についての講話

① アイヌのお話を聞く

- ・ アイヌのあいさつ

「イランカラブテ」

アイヌの文化についての説明。

- ・ アイヌ語の地名

自分たちの身近な地名がアイヌ語であることに気付く。

② アイヌの古式舞踊



ポロリムセの歌詞を教えていただき一緒に歌ったり踊ったりしました。
ウータレ オープン リムセ レイアン
アーホホイヨー チョウラックン チョラ
ックン チョラックン チョ！セッサ！



【実践②】自分の興味があるテーマについて調べてまとめる活動について

○ ねらい

体験活動で得た、もっと知りたいことや疑問に思うことを調べ、まとめる。

○ 学習内容

アイヌの人たちの生活を「衣」「食」「住」「遊び」の4つをテーマに分け、自分が調べたいことについて調査活動を行い、まとめる。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 授業の導入に体験活動を取り入れたことで、子どもたちの興味や疑問が高まり、その後の調査活動が意欲的であった。
- ・ 本物に触れることで、アイヌの模様の美しさや踊りの楽しさなどを知り、子どもたちは、アイヌ文化を共感的に受け止めることができていた。
- ・ アイヌの生活と自然の結び付きについて知ることができ、自然を大切にすることについても考えることができた。



② 課題

- ・ 社会科の授業として取り入れたため、単元の時数を13時間で設定した。そのため、調べてまとめる学習が中心となった。指導時数に余裕をもたせると各テーマで交流したり、発表することができ、その後の学びへの深まりを生み出すことができると考える。
- ・ 「人権教育」としてのねらいを深めるためには、「自分の大切さを認め、それと同じように他の人も大切にすること」という価値を見出すことができる授業場面があるとよかった。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 人権教育としてさらに学びを深めるためには、1学年だけの学習で終わらずに、次学年での道徳、総合的な学習の時間での福祉の学習など、様々な学びの中で人権について触れ、既習とつなげて考えるような横断的・総合的な学びが必要になると考える。
- ・ 人権教育を年間のカリキュラムに位置付けることで、計画的・効果的に指導することが可能になり、他教科や領域と連動することもできる。このような検討が各学校の教育課程検討委員会などでできるとよい。
- ・ 本校では、法務局の札幌人権擁護協議委員会の方が来校し、「命を大切にすること」というテーマで人権教室の授業を継続して実施している。今回のアイヌ体験授業と、この題材とつなげることは難しかったが、同じ9月に実施していることもあり、子どもたちの学びの中で「人権について考える月間」のような取組も可能であると考えられる。



人権教室での授業場面